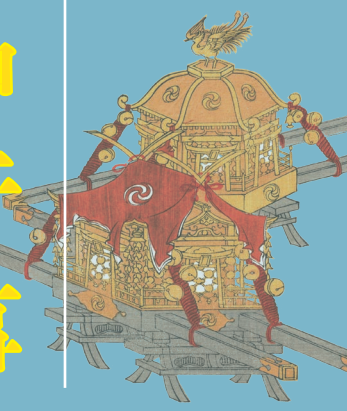
京都 有斐斎弘道館 講座

旧暦で読み解く

日本の祭と年中行事

日本の祭と年中行事を、旧暦（太陰太陽暦）の観点から捉え直す。
春夏秋冬、季節ごとに具体的な事例を通して、
民俗学的な視点を採り入れながら、その構造と意味を学びます。

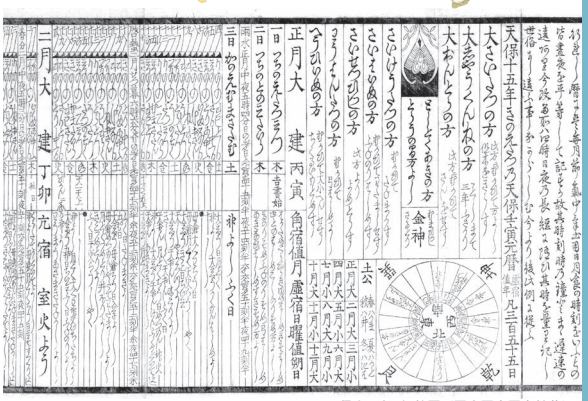


日本の祭と年中行事を、旧暦（太陰太陽暦）を元に民俗学的な視点を採り入れながら読み解きます。明治以降、新暦（太陽暦）が導入されましたが、江戸時代以前も太陽の動きは日々の暮らしに不可欠でした。

祭と年中行事は、共同体や家族、個人の生活リズムを整え活力を更新する重要な役割を担うとともに、歴史・今・未来を繋ぐ文化遺産です。地域や時代ごとに多様に展開する祭と年中行事の中に通底する類似構造を提示し、その本質と役割について掘り下げます。

「暦の上では？」は旧暦のこと？
土日開催は時代の流れか？
伝統とは何か？
祭は誰のものか？

諸国図会年中行事大成



天保十五年 伊勢暦（国立国会図書館蔵）

時間 11 時～ 12 時半　**受講料 2,000 円**（各回）

会場 有斐斎（ゆうひさい） 弘道館（こうどうかん）　当日会場参加＋アーカイブ配信

新型コロナウイルス感染拡大の状況によってオンライン等に変更となる場合があります。

２０２２年（令和四年）

4/24（日） 旧暦（太陰太陽暦）と新暦（太陽暦）
月の朔望と太陽の高度と季節の関係

6/26（日） 夏季の祭と年中行事
灌仏会・御霊会・虫送り・大祓

8/21（日） 秋季の祭と年中行事
七夕・盆・地蔵盆・八朔・放生会・月見泥棒・収穫祭

10/16（日） 冬季の祭と年中行事
亥の子・七五三・冬至祭・新嘗祭・大晦日

２０２３年（令和五年）

1/22（日） 春季の祭と年中行事
正月・予祝（粥占 綱引 田遊）・節分・鎮花祭

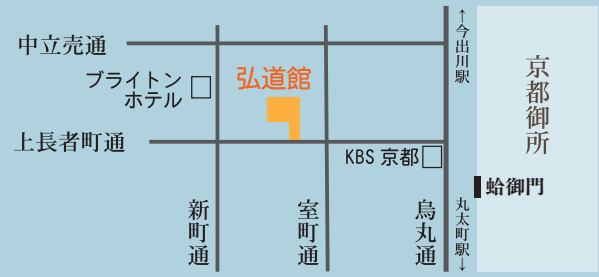
講師 森田 玲（もりた あきら）

玲月流初代 篠笛奏者
京都大学農学部森林科学科卒
京都市芸術文化特別奨励者
文化庁芸術祭新人賞受賞
同志社女子大学委嘱講師
大阪芸術大学非常勤講師
『日本の祭と神賑』創元社
『日本の音 篠笛事始め』他
関西学院大学・島村恭則研究室（民俗学）所属

お申し込み・お問い合わせ

電話・FAX ０７５-４４１-６６６２
E-mail info@kodo-kan.com
https://kodo-kan.com/

受講方法などの詳細は有斐斎弘道館のウェブサイトをご覧ください



〒602-8006 京都市上京区上長者町通新町東入る元土御門町 524-1
地下鉄烏丸線「丸太町」または「今出川」下車徒歩７分 ＪＲ「京都駅」よりタクシー 15 分